

テーマ	報告実践/報告者	会場
<b>第1分科会</b> <b>乳幼児教育にかかわって</b>	<p>太郎さん(仮名)の成長を見守りながら ~親・保育所・専門機関等の連携を通して~  小林広子さん、福嶋睦子さん(佐賀/唐津市若葉保育所)  入所して4年めの「障害」のある太郎さん。ありのままの姿を受け止め、保護者・専門機関と連携して見守ってきました。太郎さんの笑顔と子どもたちに支えられ、成長を喜び合って支援してきた保育所の取り組みの報告です。</p> <p>子どもの現実から創造する保育 ~保育を通して子どもの成長を確認し合う~  坂田真由美さん(福岡/太宰府市南保育所)  部落解放運動にかかわるなかで、生まれ育った「ムラ」のこと、親の仕事や願いをとらえ直した報告者。一人ひとりの子どもによりそい、子どもの学びと育ちを保護者や地域とともに保障する同和保育所の取り組みを報告します。</p>	<b>西鉄イン福岡</b> 2F 大ホール
<b>第2分科会</b> <b>学校の教育力の充実I</b>	<p>明るい未来を信じ合う宣言  「どうせ、おれは鹿児島に帰るんじゃけ」から、「青江小に行ってよかったよ」へ  清水昌和さん(大分/佐伯市立上入津小学校)  クラスには、いじめなどのさまざまな問題がありました。部落問題学習や「青江小宣言」の取り組みを通して、気になる子どもたちが学び合い、お互いの存在や人権の大切さを確認し合う実践の報告です。</p> <p>一人も見捨てない学級集団をめざして 本多いずみさん(長崎/佐世保市立広田中学校)  転動して受け持つことになった中学3年生、つながっているとはいえない子どもたち。どこまで通じるか不安を抱えながら、「一人のことをみんなで考えられるなかまになってほしい」「自分の進路を実現してほしい」という、担任の思いを伝えることから始めたなかまづくりの報告です。</p>	<b>福岡県自治会館</b> 2F 大会議室
<b>第3分科会</b> <b>学校の教育力の充実II</b>	<p>これからの人権・同和教育を考える  ~真幸中学校における『西諸みんなで人権を考える日』の取り組みを通して~  山下豪一さん(宮崎/えびの市立真幸中学校)  2014年末に地域で起きた差別発言を契機として、西諸県地区(2市1町)では「西諸みんなで人権を考える日」が設定されました。その一環として校内人権学習に取り組み、自身の人権・同和教育について振り返り、子ども・家庭・学校をつないでいく実践の報告です。</p> <p>「差別やいじめはいらない」 ~学校総体でとりくむ人権・同和教育をめざして~  前田千恵さん(鹿児島/伊佐市立本城小学校)  自分の思いを学級で伝えることができない子どもたち。その思いを部落問題学習で引き出し、人権集会へとつないでいきました。子どもたちが語り合えるなかまづくりをめざした、学校総体の取り組みの報告です。</p>	<b>福岡県部落解放センター</b> 4F 大会議室
<b>第4分科会</b> <b>子ども支援・親支援I</b>	<p>「ぼくって、中学校いけると?」 ~「つながり」をキーワードに~  柴田弘明さん(長崎/佐世保市立小佐々小学校)  「ぼくって、中学校いけると?」と、突然兄に言った5年生のYさん。家庭の状況から、不安になって出た言葉でした。そんなYさんの不安を払拭するために、「つながりをつくる」という目標をたて、さまざまな取り組みをしていく報告です。</p> <p>小さなこと できることから 少しずつ  ~目の前の子どもが 子どもらしく 安心して のびのびと 過ごせる時間を~  宮原朋瑚さん(大分/一般社団法人 子どものじかんネットワーク大分)  地域の子どもの安心できる居場所づくりと、生き抜く力を育む学習支援、朝食づくり、体験活動が行われています。子どもに多くの愛情を、同居親に時間的・精神的なゆとりを、別居親に子育ての喜びと責任を保障するための「面会交流支援」の取り組みの報告です。</p>	<b>アクロス福岡</b> 4F 国際会議場
<b>第5分科会</b> <b>子ども支援・親支援II</b>	<p>「いっしょにうたっておどれるきょくがいいな」 ~小学校の進路保障って?~  いじまよしのりさん(鹿児島/日置市立伊作田小学校)  「障害」のあるゆうきさんの入学にあたり、保育所と小学校が連携して入学の準備を進めていきました。入学後、学級でのなかまづくりを通して、子どもたちが互いの持ち味を受けとめ、反差別的なかまとしてつながっていく報告です。</p> <p>「授業料を払うものもいれば、払わなくていいものもいる。その違いがあるところに差別を感じる」  田多良裕士さん(熊本/熊本県立小国高等学校)  健から、高等学校等就学支援金の辞退届が提出されました。「難しい言葉が多く、全体的にわかりにくかった。支援金制度は無償化と違う考えではないか。授業料を無償にしてほしい」と語る両親。制度の差別性を実感しながら、救済措置の実現をめざした取り組みの報告です。</p>	<b>アクロス福岡</b> 7F 大会議室
<b>第6分科会</b> <b>人権のまちづくり</b>	<p>学ぶことでつながる つながることでさらに学ぶ  我那覇生純さん(熊本/阿蘇きずな歯科医院長)  在宅療養支援歯科診療のなかで、患者さんに出会い、歯科医療に誇りを持ち、夢と希望と可能性を実感する報告者。自分にとっての「沖縄」「コンプレックス」「家族」と向き合い、差別に対してどう生きていくのかを語る報告です。</p> <p>延岡市の人権・同和教育の取り組み  花岡清蔵さんをはじめ、ともに取り組むみなさん(宮崎/延岡市同和教育推進委員会)  「ともに、部落差別をなくす取り組みを」という「ムラ」の人の言葉を大切にして、「ともに」という願いに応えるように、支部・行政・地区同教が「部落差別をなくす」思いを一にして取り組みを進めてきた報告です。</p>	<b>福岡市民会館</b> 2F 小ホール 会館正面右の階段より入る